

情報専門系学士課程分野

佐渡一広

元群馬大学

ソウル協定部会主査

情報専門分野としての認定分野

- JABEEの認定開始時では情報分野として認定
- 2010年からソウル協定の認定を開始
- 2013年からは情報分野の認定を停止

情報専門分野の認定状況

- 現在の認定プログラム数：17
 - 情報分野として認定数が、2010年当時約30
 - 当初の情報分野の認定数からおよそ半減
 - 一部電子情報通信コンピュータ分野に変更している
- 認定継続辞退が多い
- 新規はそれなりにある
- 近年の改組等で認定辞退が増えている

ソウル協定

- 情報専門分野の国際認定として、**2008年設立**
 - **WA**では情報（主にソフトウェア）分野を含まないため、**韓国**が中心になって**6カ国**に呼びかけて設立
 - **JABEE**は設立時メンバー
- **JABEE**では情報専門分野はソウル協定対応の認定になる
- 現在正式加盟**9**団体、暫定加盟**8**団体
 - 近々数カ国増える予定
- URL:<http://www.seoulaccord.org>

ソウル協定の加盟状況

- 2008年：ABEEK（韓国）， ABET（米国）， ACS（オーストラリア）， BCS（英国）， CIPS（カナダ）， JABEE
- 2009年：HKIE（香港）， IEET（台湾）
- 2021年：CONAIC（メキシコ）
- 2024年：IABEE（インドネシア）， EI（アイルランド）， ETEC/NCAAA（サウジアラビア）， MBOT（マレーシア）
- 暫定加盟：CSSL（スリランカ）， ITPNZ（ニュージーランド）， ICACIT（ペルー）， PICAB（フィリピン）

継続加盟審査

- JABEEは23年度にソウル協定の継続加盟審査の審査を受けた
 - 今回3度目の審査で、これまでは大きな問題点の指摘はない
- 審査結果は6月のソウル協定中間会議で審議される予定 → 無事継続加盟が承認された
- JABEEはVirtual審査を行なった（コロナ禍のACS以外はFace to Faceが中心になっている）

認定基準

- 2019年のJABEEの認定基準の改訂時から基準1.2に、個別基準として、CC2020やJ17など、情報処理学会やACM等が作成したモデルカリキュラムを取り入れている
- 受審プログラムは基準1.2について、以下のいずれかが求められる
 - モデルカリキュラム準拠
 - JABEEの個別基準を満たす（これまで通り）
 - モデルカリキュラムはこの個別基準を満たすものを採用している

情報専門分野の取り組み

- **2019年度からIT（インフォメーションテクノロジー）分野をインフォメーションテクノロジー・サイバーセキュリティ（IT・Csec）分野に変更**
 - 個別条件を2種示し，いずれかを選択
- **データサイエンス分野の新設**
 - 2024年基準に導入
 - 現在，関係学科等への働きかけ

受審プログラムを増やすための検討

- 分野の考え方の再構築が必要と考えている
- 大学科，多数のコース等が増えている
 - 1プログラム1分野では難しいのではないか
- 技術士の1次試験を考慮した上で，分野融合，文理融合（いずれも情報分野では顕著）の学科等がどのようにすると受審しやすくなるか

情報専門分野の取り組み

- 技術士以外の資格の検討
 - 情報技術者試験や民間の試験など，多数ある
 - 各大学での学生への受験推奨状況などを考える必要がある
- 自己点検書，報告書，審査等にAIを活用できないか検討中